

73 期  
環境レポート



**FUJITA**

株式会社新潟藤田組

# 1. 環境方針

## 株式会社新潟藤田組 環境方針

株式会社新潟藤田組は、エネルギーの効率的運用による環境負荷の低減と、産業廃棄物の排出を抑え、建設業としての事業活動を通じて以下の環境方針に基づき、新潟地域の環境対策に取り組み、地域社会の持続的発展に貢献できる企業を目指します。

1. 当社の業務運営に関わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防と環境保護を推進するとともに、環境対策活動の継続的改善を図ります。
2. 当社に関連する環境関連法規制などの要求事項を遵守します。
3. 当社の事業活動に関わる環境影響のうち、以下の項目を環境経営重点テーマとして取り組みます。
  - (1)二酸化炭素排出量の削減
  - (2)資源のリサイクルや節約
  - (3)環境美化活動の実施
  - (4)法令順守
4. すべての社員が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、環境方針を全従業員に周知します。

上記の方針達成の為に目的を設定し、定期的に見直し、環境活動を推進します。

2017年3月31日  
株式会社 新潟藤田組  
取締役社長 藤田直也

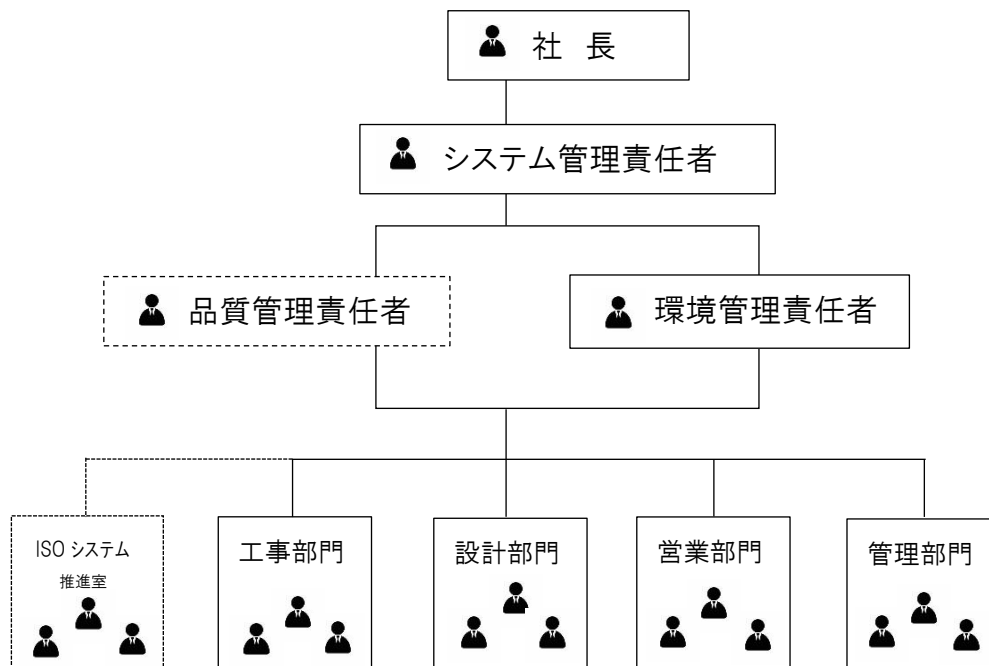
## 2. 企業概要 ・ 取り組み体制

### ● 企業概要

社 名 : 株式会社 新潟藤田組  
 代表者 : 取締役社長 藤田 直也  
 所在地 : 新潟県新潟市中央区白山浦2-645-1  
 電 話 : 025-266-1166  
 資本金 : 9,000万円  
 従業員数 : 88名(令和4年4月現在)  
 創 業 : 大正14年10月

### ● 環境活動の取り組み体制

当社は、下図の組織体制で環境マネジメントシステムを運用します。



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 新潟藤田組は「SDGs」に賛同しています。

新潟藤田組は、「我々は信頼の獲得を大切にし 会社と社員一人一人が 共に成長し発展し 建設事業を通じて社会に貢献する」という経営理念の基、SDGsの取り組みに賛同し、目標達成に貢献してまいります。事業活動のあらゆる側面と社会貢献活動を通じて、社会が抱える問題の解決を目指します。

## SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」で、社会が抱える問題を解決し、2030年までに持続可能な世界を実現するための「17のゴール」と「169のターゲット」で構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

## 《 新潟藤田組の SDGs への取り組み 》



自然エネルギーを活用し、  
環境に優しい会社を目指します。

- ・ 太陽光発電による再生可能エネルギーの持続的な普及への貢献
- ・ 土質改良「土のリサイクル」、土壤汚染対策の実施
- ・ ZEH、高気密高断熱住宅、省エネ住宅  
(断熱等性能等級 4、一次エネルギー消費量等級 5)
- ・ ISO14001 マネジメントシステムによる、CO2・電力使用量・事務用紙使用量削減への取り組み
- ・ 環境美化活動への取り組み  
(公園整備、信濃川をきれいにする会「クリーン作戦」参加、NPO 森林ボランティア参加)

### 3. 事業における環境活動

#### ● Plan (計画)

■方針にもとづき以下の目標に向かって取り組みます。

- ①二酸化炭素排出量の削減
- ②資源の節約  
工事受注量を考慮した算出を行い、昨年度以下にする。
- ③美化活動の実施  
美化活動の定例実施
- ④法令順守  
環境法令遵守

#### ● Action (見直し)

■見直し、改善を図ります。

- ①二酸化炭素排出量の削減
- ②資源の節約  
工事受注量を考慮した算出を行い、昨年度以下にする。
- ③美化活動  
昨年同様に実施
- ④法令遵守  
昨年同様に違反等皆無にする

#### ● Check (点検)

■目標と実績とを比較します

対象期間 3年3月1日～4年2月28日

- 二酸化炭素排出量  
前年度より比較的少雪・暖冬であり、暖房器具の使用を抑えることができたため、電気使用量が減少した  
前年度実績比 3,332kwh 減少
- ガソリン使用量  
1Lあたりの走行距離は前年度実績より2.5km増加
- コピー用紙の使用量  
使用枚数/完成工事高比で前年度実績より0.000061減少(ペーパーレスの推進)
- 美化活動  
美化活動の定例実施  
実績:本社周辺・近隣公園のゴミ拾い、アダプト活動の実施
- 法令遵守  
環境法令遵守の確認  
実績:環境法会の違反等無し

#### ● Do (実行)

■具体的な取り組み事項

- ①二酸化炭素削減の取り組み
  - ・発電設備等  
太陽光発電設備の活用
  - ・空調設備・運用等  
クールビズ・冷暖房のこまめなオンオフ・業務効率化による節電  
空調設定を温度湿度で管理する  
冷房 28℃以上、暖房 21℃以下(厳冬期 24℃以下)  
ドライ湿度 80%以上、風力(弱)での運用
  - ・照明設備・運用等  
高効率照明設備の活用  
単独スイッチの活用  
こまめな消灯・業務効率化による節電
  - ・車両選定・運用等  
低燃費車への入替  
ハイブリッド車でのガソリン使用量の削減  
アイドリングストップの実施  
燃費向上運転の指導・心がけ  
冷暖房の使用状況改善
  - ・その他  
啓発掲示物等の掲示
- ②資源の節約への取り組み
  - ・コピー・FAXの運用等  
両面印刷、裏面印刷によるコピー用紙の削減  
ミスコピー撲滅運動の実施  
電子化・ペーパーレス化の推進
  - ・その他  
啓発掲示物等の掲示
  - ・資源の有効活用等  
ゴミ完全分別実施
- ③美化活動の実施
  - ・本社周辺及びキング公園の日々のゴミ拾い、維持管理の実施(冬期及び悪天候日を除く)
- ④法令遵守への取り組み
  - ・すべての作業所で環境法令を遵守する  
施工前検討会での確認  
担当者による遵守状況の確認
- ⑤著しい環境側面への対策
  - ・消火設備の点検管理と緊急時の対応・対策訓練実施

## 4. CO<sup>2</sup>排出量チェックシート (73 期実績)

オフィス部門 本社・FBOX・下越(営)・中越(営)・西蒲(営)

### ●電気・ガソリン使用量

	前期	当期目標	当期実績	削減量目標	達成数値 (前期に対する当期実績)
電気	75,650kwh	74,137kwh	72,318kwh	前期実績以下	-3,332kwh
ガソリン (社有車)	19.6km	19.5km	22.1km	前期実績より 向上	+2.5km

※1 ガソリン使用量については、1Lあたりの走行距離(全社平均)としている

### ●その他環境に影響するもの

	前期	当期目標	当期実績	削減量目標	達成数値 (前期に対する当期実績)
コピー用紙 (A4 換算)	467,000 枚	458,000 枚	369,500 枚	前期実績以下	97,500 枚減少
	0.000133	※2 0.000115	※3 0.000072		0.000061 減少

※2 完成工事高・使用枚数比 前年実績の0.000115以下にする。

前年実績(0.000133) = 使用枚数(467,000枚) ÷ 完成工事高(3,517百万円)

※3 当期実績(0.000133) = 使用枚数(369,500枚) ÷ 完成工事高(5,146百万円)

## 5. 73 期年間成果

オフィス部門 本社・FBOX・下越(営)・中越(営)・西蒲(営)

### ●電気・ガス・ガソリン

#### □ 電気

前期より 3,332kwh 減少。

73 期は 72 期と比較し、少雪かつ暖冬となり電気使用量が減少した。74 期も室温管理をこまめに行うと共に、より一層の業務効率化に努めるなど消費電力の削減に努める。

また、71 期(令和 2 年 11 月)に設置・稼働開始した西蒲技術センターのシステム容量 95.6kwの太陽光発電設備により、昨期に引き続き発電量が電気使用量を上回る結果となった。

#### □ ガソリン

1L あたりの走行距離(全社平均)は前期より 2.5km増加。

省エネ車への入替え、省エネ運転、アイドリングストップ活動の推進を行い燃費維持が出来た。数値目標とはしていないが、参考数値として引き続き全社にて取り組んでいく。

### ●その他環境に影響するもの

#### □ コピー用紙

当期実績 0.000061 減(=使用枚数÷完成工事高)。

完成工事高と使用枚数比で前期実績以下を目標とする。

具体的な施策では、ミスコピー撲滅運動、白紙裏紙の活用、電子化・ペーパーレス化の推進等。

#### ・ ゴミの完全分別(本社)

本社分別実施 100%。

啓発掲示物等の設置。分別処理と対応するゴミ箱の明示等(可燃ごみ、不燃ごみ、再生紙、シュレッダー)。

#### ・ 環境美化活動

本社周辺及びキング公園を清掃可能な天候の日には毎朝実施。

アダプトプログラムの実施。

信濃川をきれいにする会「クリーン作戦」参加。

NPO 森林ボランティア参加。